

眩い日差しはスモールライト？

★滋賀県 湖東 愛知川

☆神崎・茶屋合流点・八風谷

春陽の眩い日差しを浴びて、心地よい気分と共に川原に降りる。

神崎橋の袂にあるプールでは餌釣りの針を逃れたあまごがクーリングを楽しんでいた。

「なびびびちに行かないか？・神崎茶屋」
「何時モノの場所まで同じ事を考えている。

今日は時間がたっぷりあるので、茶屋川を詰める事にした。

少し釣りあがるとイワナが出だした。飽きない程度と言っよりは、忘れた頃に・・・と言っ表現が正しいかもしれない。

まあ、ミニはいつもこんなもんだ。

眩い日差しが一面に反射して、川面がキラキラ輝いている。偏光グラスをブラウンからグリーに変えて、ピッチを上げて釣り上がった。

「ボクろろろやなあ〜・・・」

「スモールライト」「存知、ドラスもん」

がポケットから取り出す・・・あれ・・・この光を浴びると、目の奥に小さなななな・・・ボクろろのライト・・・

どうもこの川原に降り注ぐ日差しはスモールライトの成分が混ざっているらしく、入深から日差しを浴び続けて釣り上がっているうちに、私の体はどんどん小さくなってしまふ・・・

やがて、先程まで蹴飛ばしていた様な小石が、踏み越えなければならなくなって来た。

踝までしか水がなかった落ち込みも、もはや膝上まで浸かってしまふくらいに淵のようになってる。

（これからや・・急に俺がちっちゃなんの・・・と、首で大きな息をして小石のはずの岩に座って休憩、心地よく川原に春の風が過ぎって行った。・・・）

以前神崎の大堰堤の下手で釣っていた時・・

「ミニろホンマにっつい岩やなあ〜・・・」

また間が悪い事に、前の晩に子供に頼まれて「ミクロ決死隊」のビデオを録画しており、しっかりとミクロの世界が脳裏に焼きついてた。

「単純にこの俺がちいこなってるだけやったりして！・・・アホくなあ〜・・・笑」

・・・と、冗談めいた妄想が湧いた途端、対岸の彼方で黒い物体が目にも留まらぬ速さで岩を越えた。

「なんやあれ？・・蜘蛛？・・蟻かあ？・・

エエ〜！・・太かいぞあ〜・・うっぞあ〜！

「こっちに向かっている様に見えた・・・

「ううわあ〜・・何やあの虫〜・・ヤバー！

次の瞬間、対岸の岩に恐怖の巨大昆虫が立ちはだかった。

「ワンワンワン〜ウ〜・・・ワン」

巨大昆虫は対岸の私を見据えて威嚇する・・・遠くで叫ぶ小人に振り向き一目散に走って行く。

「・・・犬やんけ！・・驚かすなや！・・」

やがて、短い毛並みの黒い大型犬を連れた小々なぬ普通のキャンパーが対岸で「釣れますか？」と笑顔で聞いている。

落ち込む水の音にかき消されて、声は聞こえないが口元がその様に動いていた。

無言で微笑み、右手を全然と左右に振るが、心の中では「この野郎〜・・」と言っ思いで、奥歯がじりじりと歯軋りを立てていた。

周囲を見渡すと、本当に釣り人が小さくなって呑み込まれて居る様な錯覚に陥る程、巨岩が散らばる川である。

「あのビデオがアカンねん・・・ホンマあんなビデオ録画すなや！・・」

「このころから、いつもこのあたりで釣ると、釣り人が小さくなってしまふスモールライト現象を感じる様になっていた。」

「……春風が何度か過ぎり、相変わらず眩い日差しが降り注いでいる。漸く休憩を終えて立ち上がり、吊橋目指して釣りあげた。」

先程まで踏みしめていた岩が、両手を使ってよじ登らなければ進めなくなってきた。

更に進むと、よじ登っていた岩も迂回せねばならなくなってくる。落ち込みが大淵に見えてきて、またげる様な流れも、腰まで水圧を感じて進行しなければならぬ。

「Rイワナがおったら喰われるかも?」……と恐る恐る流れを渡る。

ところが、イワナもこのスモールライトを浴びている為か、釣り人程ではないまでも一緒に小さくなっている。

「ミニだけが残念ではあるが致し方ない。」

やがて吊橋が見え始めると、釣り人もイワナも……ほとんど元の大きさに戻りだし、迂回していた岩も踏みしめれる様になり、やがて蹴飛ばせる大きさに戻ってへる。

漸く吊橋の袂に来て……スモールライト現象もなくなり、元の大きさに戻っている。

「さあ……上がるかあ……」
茨川への林道目指して吊橋を渡り、喘ぎながら階段を上がるのが最近辛くなってきた。

「年やなあ……」
どうせならここで「タケコプター」でもって、林道まで運んでくれんかあ?……ホンマ……

■神崎・茶屋合流点・八風谷のミニ案内

この釣りが、ある程度わかりはじめた頃、釣り雑誌のひとつの写真に釘付けになった。

「ウエルタネスと呼ぶにふさわしい……」と記載された記事の上に、花崗岩の大きな川に架けられた吊橋を一人の釣り人が渡っている写真だった。

「ミニ神崎川下流域と、合流点から写真にあった吊橋が架かる茶屋川の八風谷合流点までは巨岩が散らばるスケールの大きな渓である。」

林道から見下ろすとそれほどでもないが、いざ川に降りると想像以上に釣り人の自分が小さくなった錯覚に陥る。

神崎橋の袂から茶屋川を詰める中程で巨岩が出現するところから吊橋までが比較的イワナ

の魚影が濃いと思う。残念ながらRサイズは見かけたことはあるが、未だに釣ったことはない。コツとしてはその日の居付場をいち早く見定めることが重要で、これによってドライが良いか?ウェットにするかを決めている。何故だか私は、ミニであまごを釣ったことがない。

確かに、一度入ると半日以上どっぷりのコースとなり、どうせこの巨岩を遊行するなら、いっそ神崎上流を自指す釣り人が多いのか、他と比べて釣り人を見かける事は少ない。

また、八風谷は八風街道から茨川林道(茶屋川沿い)を少し入ったところにある八風橋の袂からへつって堰堤の上に降りる(落っこちない様に注意!)。ミニはスケールも一回り小さく、雰囲気は抜群だが、少しあまごの顔が拝める程度……一時間程、釣り上がると八風街道側に林を抜けて上がれるし、小堰堤を越えて更に上がると橋の袂から八風街道に上がれる。しかし、苦労する割には釣果は望めない(私を知る限りでは……)。

一方、神崎川だが、こちらも神崎橋から上がるにつれて、ほとんどスケールが大きくなる。どちらかと言えばあまごだが、ミニの特大大カワムツが、一等地に定位するあまごの様を振る舞

